

令和7(2025)年度

合併号 12月

おはや。自分は何才か。
ハッとてで至る人...

shin kosh

心耕

しん こう

西光寺口報

十二月の行事

十二日(金)はじめの一步

午後一時 - 才五期スタート!

二十一日(日)日曜法座

午後一時 - 担当: 任取

三日(水)勉強会 休み

十二日(金)勉強会 全期七時

十九日(金)写経会 午後一時

二十八日(日)寺カテ

午前十時 - 「いざ焼、もちつき」要予約

ヨガ 毎週火曜 午後一時 三十日休

お朝事 毎朝六時半

一月の行事

一日(木)元旦会

午前十時 - まずは阿弥陀様にあ礼を

十六日(金)御正忌

午後一時 - 親鸞聖人の二命日です。

十八日(日)寺カテ

午前十時 - 障害者福祉について

ヨガ 毎週火曜 午後一時

お朝事 毎朝六時半

報因講の講師 浄謙さんが

法話の中で「暁」の意味を教えて

くれた。夜明け前の事だ。

我々は死に向かて時向か進む。

死の方向は南なのかな夜なのだろう

か。親鸞聖人は「信心をえたる人

をは無碍光仏の心光 つかにてら

しまもりたまつゆえに無明のや

みはれ生死のながき夜すでに

あかつきになりぬとしるべし」と

生が明るく死は暗いのは存人

生の悩み苦しみの闇から 阿弥陀仏

の光の世界へと進んで行くのが

浄土真宗の教えです。

ナマシタテ

フタタテ

法座案内

十二月十二日(金) 十三時〜

第五期はじめの一步 第一回

ゼロから仏教を学ぶ会です。『観

無量寿経』を学びます

十二月二十一日(日) 十三時〜

日曜法座

「確かなものは 今もはたらいて

る如来の本願力」 住職担当

一月一日(木) 十時〜

元旦会

令和八年初めの勤行まずはお寺へ

一月十六日(金) 十三時〜

御正忌

親鸞聖人のご命日の法要です。

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半〜七時、お勤めをしています。日々のご参り、命日などにお参り下さい。

・写経会

十九日(金) 十三時〜十五時 一月休

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 十二月、一月休

婦人会 十二月 十時〜 一月休

・Youtube 西光寺チャンネル

新しいアニメを作成中！
他の動画はQRからどうぞ！



・はじめてのヨガ 毎週開催！

毎週火曜 十三時〜 毎回千円

三十日休み ヨガマツト持参 予約不要

・みんなの寺カフェ

二十八日 ピザ焼き・餅つき

一月十八日 障碍者福祉について



・一月の心耕はお休みです

令和八(二〇二六) 年法事

年回表	往生年	西暦
一周忌	令和七年	二〇二五年
三回忌	令和六年	二〇二四年
七回忌	令和二年	二〇二〇年
一三回忌	平成二六年	二〇一四年
一七回忌	平成二三年	二〇一〇年
二三回忌	平成十六年	二〇〇四年
(二五回忌)	(平成十四年)	(二〇〇二年)
二七回忌	平成十二年	二〇〇〇年
三三回忌	平成六年	一九九四年
五〇回忌	昭和五二年	一九七七年

仏教を0から学んでみませんか？ 今回は観無量寿経です。

浄土真宗はじめの一步 第5期生募集！

浄土真宗の基礎を知りたい、家でお経が読めるようになりたいと言う方におすすめの、1年をかけて基礎を学ぶ講座です。仏教に今まで触れることが無かった、1から学びたいと言う方を対象にしています。全9回の講座を予定しています。

今期は、浄土真宗に於いて大切なお経のひとつ、観無量寿経かんむりようじゅきようを学びます。大変ドラマチックなお経です。お経を読んだことがなくても大丈夫です。

内容：観無量寿経かんむりようじゅきようを学ぶ 読経（観無量寿経を中心に）

みなさまのアンケートを参考に

参加要項

12月から
スタート！

参加資格：どなたでも

参加費：初回のみ1000円（申込時か初回時、テキスト代として）

時間：13：00～15：00

備考：全9回中、7回以上の出席で卒業です。

都合がつかない方は補講も致します。

連絡先：西光寺 0436-22-7412

	日にち			日にち
第1回	12/12（金）		第6回	6/12（金）
第2回	2026/2/12（木）		第7回	7/12（日）
第3回	3/12（木）		第8回	9/12（土）
第4回	4/12（日）		第9回	10/12（月）
第5回	5/12（火）		卒業式	11/21（土）

----- 切り取り線 -----

はじめの一步申込用紙

氏名

連絡先



お茶を楽しむ勉強会

主催 西光寺婦人会
共催 " 壮年会

仏教と関係が深い「お茶」を楽しみながら和の文化を学び、門信徒の交流を図る勉強会を下記のとおり開催します。

今年3回実施した勉強会は、茶道初心者が多く、毎回15～20名程参加があり、茶道の基本の学びや親睦を深めております。一緒にいかがですか。

見学の方や男性也大歓迎です。

皆さまのご参加をお待ちしております。

令和7年度勉強会開催日及び実施内容等：下表参照

会場：西光寺 対象者：門信徒 開始時間：10時 講師：矢元久代先生

持参する物：可能な方は30cm程度の丸盆・茶碗・袱紗^{ふくさ}・菓子楊枝

なつめ ちゃせん ちゃしゃく
棗・茶筌・茶杓

服装：軽装 その他：椅子席

勉強会テーマ	開催日時	参加費	内容(調整中)	備考
新年をお祝いしまし う！！ 抹茶でリフレッシュ 新たな気分で、年初め のお稽古 ^{はつがま} (初釜)を楽し もう	令和8年 1月24日 土曜日 10時～	1,000 円 交流会不参 加の場合は 500 円	・初釜を体験する ・お盆の上のはじめの 一歩 ^{ほんりやくてまえ} (盆略点前)を学ぶ	・参加申込 1月16日まで ・※交流会 (昼食)あり ・終了時間 13時

※参加希望の方は、西光寺(☎22-7412)あて電話でお申し込みください。

なお、内容等は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

化土

今回ご紹介の「化土」という言葉は、浄土真宗を理解する上で大切な言葉です。十二月から浄土真宗を

から学ぶ「浄土真宗はじめの一步」の第五期がスタート

します。「観無量寿経」を学びます。第三期では「阿弥陀

経」を学びました。いずれのお経も浄土三部経といい、

浄土真宗で大切にされています。これらのお経の中に

は、阿弥陀仏の極楽浄土の様子が説かれています。

「阿弥陀経」には極楽の情景描写が細かく説かれ、

「観無量寿経」には極楽浄土や阿弥陀仏を心に想い浮か

べられるよう細かく描写がされています。そこには、宝

玉や黄金で飾られた世界や阿弥陀仏が描かれています。

そこで、疑問に思うのです。仏の世界は我々の世界の

欲望の先にあるものなのかと。親鸞聖人は、これらは、

仏が我々の合わせてわざわざ現わされた浄土であり、

方便化土である。本来はいるもかたちもない浄土(報土)

を、それでは人々は理解できないのでわざわざお立てに

なった。だからすべてののはからいを超えた

報土に気づいておくれと教えを説かれます。

先手先手の阿弥陀仏のすくいです。

「観無量寿経」を十二月から学びませんか。



子が執念を出すと
親は心配する
私が苦しいと
仏は心配する

こんなところに

仏教用語

身近な仏教用語
を紹介して
います。

外道

「この外道が！」

どこかで聞いたことがあ
る台詞です。外道とはどん

な意味なのでしょうか。広辞苑を引いてみましょう

一、仏教以外の教え 二、真理にそむく説、邪説 三、災難を

もたさすもの、悪魔 四、邪悪の相をあらわした仮面 五、他

人をのしつていう語 六、釣りで目的の種類と違って釣れた

魚

釣りが出てくるとは思いもしませんでした。冒頭の「この外道

が！」は何番でしょうか。三か五という所でしょうか。

さて、最初に出てきたのが仏教以外の教えです。お釈迦様が

おられた頃の仏教以外の教えを外道といい、その代表格を六師

外道と言いました。このような教えです。

・善悪の報いはない ・すべては物質の集合体で、物質自体は

不変 ・死んだ後は無 ・すべては運命 ・あるとも考えない

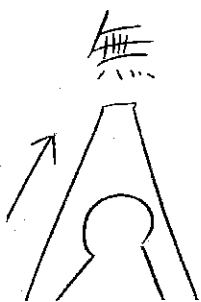
し、ないとも考えないと判断を保留する ・ジャイナ教

これらの中には、現代人でも同じような考えを持つ人がいるの

ではないでしょうか。「死んだら無、お

しまい」「今だけが楽しければいい」

いずれも外道です。



西光寺の通例行事

ほぼ毎月行っている行事の紹介です。他にも様々な行事やお手伝いをお願いしたいことがありますので、毎月の心耕を参考にして下さい。

日曜法座	毎月第4日曜 (1, 8月休み)	阿弥陀仏のお慈悲聞かせていただく法座です
はじめの一步	毎月12日 (1, 8, 11月休み)	仏教をゼロから学びます
勉強会	壮年会 第1水曜 婦人会 12日 (1, 8月休み)	三島さんからいろいろ教えていただきます
写経会	主に第2金曜 (1, 8月休み)	のんびりとお経などを書いていきます
お茶会	不定期	開催日は心耕で要確認
お朝事	毎朝6時半	主に正信偈を読んでいます
みんなの寺カフェ	毎月1回	地域の方々と連携して、様々な体験を行います。
はじめてのヨガ	毎週火曜	最初に読経、ミニ法話、ヨガで行っています。

*すべての行事、開催日は変更になる場合があります。

衆生往生

『大経』末六

先の「往観偈」は、元々は二つに分離していたようです。

『如来会』と『莊嚴経』では「往観偈」と「流通偈」の二つの偈があり、『大経』や『平等覚経』ではこの二つが一つに成っています。双方の内容が離れがたくかんじられたのかも知れません。区切りが判然としませんが、一説には「如来智慧海深広無涯底」ではないかとのことです。内容からそのように感じます。ちなみに『大阿弥陀経』には「讚仏偈」も「重誓偈」も「往観偈」もありません。

「往観偈」が終わると釈迦は還相回向を示された二十二願の成就を阿難に語ります。「衆生のためのゆゑに、弘誓の功德をもつて、みづから莊嚴してあまねく一切衆生を度脱せんと欲ふをば除く」と。この還相回向の菩薩の代表者が二名あげられます。観音菩薩と大勢至菩薩の名を揚げ、その行動や力量を示して私と同じように活動しなさいと言われます。続いて阿弥陀仏国の菩薩は佛の威神力を受けて、十方無量の世界に行つて、その世界の仏を様々な恭敬や供養等の活動をし仏を讃え経を聞き、阿弥陀仏国に帰るとあります。この箇所はやたらに難しい漢字が多く読みづらいです。しかし二十二願を始め二願、九願、

二十一願、二十三願、二十四願、四十願、四十二願とを織り交ぜて成就文となっています。

このところを「浄土和讃」では

① 安楽無量の大菩薩 一生補所にいたるなり 普賢の徳に帰してこそ 穢国にかならず化するなれ

② 十方衆生のためにとて 如来の法蔵あつめてぞ 本願弘誓に帰せしむる 大深海を帰命せよ

③ 観音勢至もろともに 慈光世界を照曜し 有縁を度してしばらくも 休息あることなかりけり

④ 安楽浄土にいたるひと 五濁悪世にかえりては 釈迦牟尼仏のごとくにて 利益衆生はきはもなし

と歌われています。難しい文字と経典の言い回しに手こずるよりも親鸞聖人の和讃を何度何度も読むほうが分かり易い気がいたします。この後は無量寿仏の説法が行われ、これを聞いた菩薩衆が衆生のために「習慣的になつて無明や煩惱を滅尽せよ」と何度も繰り返して我々の為に説法しているところです。ここでも二願、六、

八願、十九願、二十五願、二十六願、二十九願、三十願、三十六願、三十七願と成就文が混ぜ込まれています。前半は二十五願が後半は二十六願が我々に対する釈迦の説法を中心となっています。

住職多感

御正忌(ごしょうき)参詣(めい)らんかん、
情人(やね)が髪結(かみむす)うて 待つとるばん。

御正忌 参詣らんかん。

寺の夜明けの細道に、

鐘が鳴る、鐘が鳴る、

逢うて泣けとの鐘が鳴る。

郷里の詩人、北原白秋が私の実家(寺)の風情を表した、第二詩集「思ひ出」に収めた【六騎】(ろつきめ)という詩である。

漁師原とそこにある寺の、旧暦十一月二十八日までの七日七夜にわたる御正忌報恩講の様子の中の一部分である。今はその風情はないが、私が小学生の頃、昭和三十年代半ばまではそのまんまの雰囲気であった。この詩が出来たのは明治三十年代である。

日本が近代国家へと変貌し、やがて絶対主義国家、幾多の戦争を経て、昭和二十年の敗戦。戦後平和主義国家への転換と復興と高度経済成長。時代のうねりが光と影を有するものならば、寺は影を映すものとしあ

ったように思う。沖の端のご本山とまで云われた実家の寺は、後継住職(私の父)の女性との出奔騒動もあり急速に衰えた。寺も地域も貧しさのどん底にいた。

だが長い年月をかけて出来上がったものの香りは残る。昭和三十年代、海苔の養殖が始まり沖の端の漁師原は景気が良くなった。私の兄が寺の後継ぎとして龍谷大学に進むとき、貧乏で学費を出せない寺に変わって、門徒衆が学費を募ってくれた。それが少し余分にあつたので、それを工面してバイトを足して私も大学に行けた。門徒が学費を賄う、実にに珍しい話で当時も今も他に聞いたことがない。

このいきさつを良く知っている長崎の従兄弟がこの二十三日亡くなった。兄弟のようなものだったから本当に寂しい。長崎に行きたい。

やがて時代に覆われていくであろう西光寺の土台の一端です。お念仏の教えであればこそその話しであること、二十一日の法座でしっかり話します。

二月の行事

- ・四日 勉強会
- ・十二日 はじめの一步
- ・十三日 写経会
- ・十四日 寺カフェ
- ・二十二日 日曜法座
- ・ヨガ 毎週火曜
- ・お朝事 毎朝

発行

浄土真宗本願寺派(西)
西光寺

〒二九〇—〇〇二四

千葉県市原市根田

七二三—一



TEL : 0436-22-7412
FAX : 0436-24-1652
HP : <https://www.saikohji.net>
MAIL : saikohji@saikohji.net